

第 7 回評価分科会 議事概要

1 日 時 令和 2 年 3 月 25 日（水） 15:58～16:47

2 場 所 総務省第二庁舎 7 階大会議室

3 出席者

【委 員】

椿 広計（分科会会長）、岩下 真理（分科会長代理）

【臨時委員】

久我 尚子、山本 渉、美添 泰人

【専門委員】

神林 龍

【審議協力者】

総務省統計研究研修所新規情報活用技術研究官、財務省大臣官房総合政策課経済政策分析官、文部科学省総合教育政策局調査企画課課長補佐、厚生労働省政策統括官付参事官付統計企画調整室室長補佐、農林水産省大臣官房統計部企画管理官補佐（統計調整班担当）、経済産業省大臣官房調査統計グループ統計企画室参事官補佐、国土交通省総合政策局情報政策課課長補佐、東京都総務局統計部調整課長

【事務局（総務省）】

統計委員会担当室：櫻川室長、栗原次長、鈴木次長、福田補佐、増成補佐

4 議 事

（1）令和元年度 統計委員会評価分科会審議結果報告書（案）（第 5 回～第 7 回審議分）について

（2）その他

5 議事概要

（1）令和元年度 統計委員会評価分科会審議結果報告書（案）（第 5 回～第 7 回審議分）について

総務省から、資料に基づき、令和元年度 統計委員会評価分科会審議結果報告書（案）（第 5 回～第 7 回審議分）の説明が行われ、質疑応答が行われた。委員意見により何点か修正が行われ、取りまとめられた。

主な発言は以下のとおり。

- ・各府省における統計に関するふだんからの検討が大事。各府省で人材を確保して統計の質を高めるように努力するのが統計改革の目的。できれば、常設に近

- い検討会を設置し、各統計の定期的検討を考えていただきたい。1年に1回程度は相当真剣に、外部の専門家も入れて検討しなければいけないのでは。
- ・来年度の精度検査報告書のフォローアップ作業も、事務局の人的、予算的な手当ても含めて、やっていかなければいけない。
 - ・来年度の取組として欠測値補完が挙げられているということには賛成だが、これは非常に長期的な課題。学会との全面的な協力関係がなければ、事務局や府省では負担が重過ぎるし、時代の最先端に追いつく努力だけでも大変。ここは学会との協力を進めることも含めて、考える必要がある。
- 御指摘は、PDCA等をサポートする組織が公的統計の中にあるかという問題。今後統計の中核組織として位置付けられる組織体が、各府省の統計をきちっとサポートする体制が整備されることを期待する。これに学もきちっと貢献できるような役割を果たさなければいけない。
- ・来年度の取組にある、欠測値への対応に関する各府省研究成果の共有化を引き続き進めることが重要。ヒアリングをさせていただく中で、各府省で温度感が大分違うなという印象を受けた。恐らく各府省での統計人材のスキルの違いもあるのではないかと。方法・手順などが共有化されていないため、どうしたらいいかわからないということもあると思う。必ずしも全ての統計で同じ方法で欠測値への対応ができるわけではないが、困ったときに少し相談できる相手とか、事例集的なものが共有化されることは、今後一層重要だと思う。
 - ・調査方法について、前回もオンライン化を進めていけば欠測がなくなるのではという意見をさせていただいた。欠測が郵送調査の方で多いのか、オンラインの方で多いのか傾向があるのでは。オンライン調査で制御すれば欠測は発生しないと思うので、オンライン化を進めた結果、欠測が無くなっているとか、回収率の向上を目的に制御をかけていない場合の状況とか、調査方法も含めた検討も有益なのではないか。
 - ・表現が非回答、未回答、無回答と3種類存在している。回収側としては、未なのか非なのか等は判別がつかないと思うので、全て無回答で統一してもいいのではないかと。
- 用語の統一については可能な限り統一していければと思う。事務局と相談させていただき、できれば分科会長に一任いただきたい。
- ・評価について、「妥当である」と「適当である」と2つの用語が使われている。「期待する」と「推奨する」というものもある。書き分けているのか。
- 指摘事項に対する対応の判断に関するものは妥当であるとし、指摘事項に対する対応方法に関するものについては適当としている。推奨等については、指摘事項を対応した上で、こういうこともやるのが好ましい等強弱の違いを加味して書いている。
- ・第6回の資料として出していただいた資料の賃金構造基本統計調査の推計式は、一生懸命考えればある程度分かる。ただ、そのような式にしている理由が書い

ていない。ホームページに掲載されている賃金構造基本統計調査の推計式は非常に分かりにくい。利用者の観点から、表現の改善について検討していただきたい。こういうことも含めて各府省で今、公表している情報を点検していただく必要がある。そのためには人もお金も要る。統計の質を良くして維持するためには、それなりのコストをかけざるを得ないということが国全体の了解になっていくことを期待する。

- ・過去の研究成果で保存されていないものがあるとか、いろいろな問題が解ったが、これまで各府省がいろいろな研究事業をやっていたことがつながっていないということは非常に大きな問題。

(2) その他

- ・次回の評価分科会の場所と日程は改めて調整する旨、事務局から案内された。

以上